

令和3年度 精華高等学校 学校経営計画及び学校評価

1 本校がめざす学校像

- 1 建学の精神および教育目標（自立・協調・創造）に基づき、生徒の可能性を最大限伸ばす教育を行う。
- 2 生徒指導の充実と共に、基本的な生活習慣の確立、マナーの向上を目指す。
- 3 きめ細かい進路指導の下、生徒の多様な希望進路を実現する。
- 4 新コースの教育内容（新カリキュラムを含む）を策定するとともに、各コースの教育内容の充実を目指す。
- 5 特進選抜・総合コースを中心に、大学進学実績を向上させる。
- 6 部活動を活性化させ、その活動を通じて地域社会に貢献する。芸術・文化・スポーツ活動の盛んな高校をめざす。

2 中期目標（到達目標として）

- 1 日々の授業を充実させると共に、生徒に将来の目標を持たせ、意欲的に学習に取り組む環境を整える。
- 2 特進共通コースにおいては、高校生としての自覚を持たせ、生徒の基本的な生活習慣の確立、マナーの向上を目指す。落ち着いた雰囲気の中で、授業を受ける体制を作る。いじめや生徒間トラブルが起きないように、協調性や社会性を身につけさせる。
- 3 特進選抜コースでは、授業の充実はもちろん、放課後・長期休業中の講座を通して大学受験についての必要な学習内容を習得する。大学進学実績の充実を図る。
- 4 IT 総合コースでは、挨拶・礼儀、約束遵守、身だしなみ等、基本的な生活習慣を身につけさせる。また、コースの専門性を更に高め、情報化社会に対応出来るスキルを持った生徒の育成を図る。
- 5 環境福祉コースにおいては、コロナ禍の中で、保育所や幼稚園・こども園、また、高齢者施設での交流は困難な状況であるが、出来ることを探っていく。その中で主体的に物事に取り組む姿勢を育む。また、環境問題や社会福祉に対する高い意識を持った生徒を育成し、社会に貢献する力を育む。多様な個性への許容の心を育てる。
- 6 スポーツ健康コースでは、集団行動により、協調性の育成をめざす。また、素直で思いやりのある心を育てる。さまざまなスポーツやトレーニングに関する知識を学び、専門種目の技術を向上させると共に、自らの健康の保持増進に努める。
- 7 特進総合コースは、大学進学に力を入れると共に、多様な進路に対応するため機能性の高いコースをめざす。さまざまな進路希望を持つ生徒に即した、学習環境を充実させる。
- 8 グローバル化の進展に伴い、国際理解教育に取り組む。
- 9 本校特別強化クラブである吹奏楽部を中心に、強化クラブである硬式野球部・サッカー部・卓球部・剣道部・演劇部を強化する、また、その他の運動部・文化部においても、部活動の強化、活性化を図る。また、それらの部活動を通じて地域社会に貢献して行く。
- 10 学校施設・設備の充実、また、トイレの改装に引き続き取り組み、清潔・安全な学校をめざす。それに伴い、生徒の美化意識を高める。
- 11 広報の充実・強化、ホームページの更なる充実を図り、本校の魅力を積極的に発信出来る体制を確立する。また、SNS 等による情報発信を検討していく。
- 12 教育改革会議において、引き続き本校教育の中身を検討すると共に、来年度からの新カリキュラムを策定する。
- 13 新コースの立ち上げに伴い、本校のコース制の進化・再編を行い、生徒募集につなげる。また、本校のめざす教育、本校の将来像を示して行く。

【学校教育自己診断の結果と分析】

令和3年度の学校運営自己診断（令和4年2月実施 教職員自己評価アンケートをもとに）

◎学校運営

建学の精神および教育目標を、教職員・生徒に浸透させるように努める必要がある。また、教職員・生徒の愛校心は低い状況にあると、教職員は認識している。保護者評価においても「精華高校の社会における評判はよい」の項目の肯定的意見は約半数である。本校の社会的評価を上げるために、進学率および進学実績の向上を図る。また、地域に貢献できるコース活動、部活動を更に推し進めることにより、精華高校の社会的評価を高めると同時に、生徒の自己肯定感を高める教育活動を行う。ただし、保護者評価における精華高校の評価は高い。

学習指導要領の対応状況は高評価である。シラバス作成は引き続き行うと共に、内容を充実させる。

教員・教科間連携を更に高める必要がある。教員間の信頼感の醸成のために、教科会議の有効な活用を促す。また、効率的で有効な会議の運営を、各リーダーが率先して工夫していく必要がある。これは喫緊の課題である。

財務関係および評議員・理事会機能については、情報の発信を工夫し教職員の啓発に努める。ホームページの更なる充実を図り、開かれた学校作りを推し進める。一斉メールの有効な活用により、学校の危機管理体制を更に強化して行く。地域交流については、積極的に行われている。本校は地元との結びつきは強い。

◎ 教育内容

最新の設備を備えた E ルーム (ICT 教室) では、オンライン英会話をはじめ、新時代の授業が意欲的に行われている。全館 ITC 化の工事終了に伴い、時代の要請である教育のデジタル化を推進し、授業の改革を鋭意進めていく。令和 4 年度から始まる「新学習指導要領」に合わせて、新コースを立ち上げ、カリキュラムを一新した。新入生から一人一台のタブレットを持たせ、「主体的な学び」を積極的に推進するとともに、情報化社会における様々な情報活用能力を養って行く。

新コースは次の 5 コース。

- ◆「ニュースタANDARDコース」は、基本的な生活習慣を確立し基礎学力の充実を図るとともに、多様な進路実現をめざす。学び直しを行い、基礎的な学力を確保する。また、タブレットを使う中で情報収集能力・情報発信能力を高め、合わせて情報リテラシーを身につける。
- ◆「スーパーグローバルコース」は、現代社会に必要な能力とされる情報力・語学力・思考力・表現力をキーワードに、日本（ローカル）と世界（グローバル）の経済・文化・環境等を探究し、オンライン英会話を集中的に行い実践的な英語力を身につけると共に、世界で活躍できる人材の育成をめざす。
- ◆「スポーツ&アートコース」は、強化クラブ（硬式野球・サッカー・剣道・卓球・女子バスケットボール・吹奏楽・演劇）に特化したコース。近畿大会や全国大会といった大きな目標を持つ仲間とともに、勉強とクラブ両面において互いに切磋琢磨し、自己の成長を促す。
- ◆「i-Tech コース」は、3年間を通して基本的な「情報」に関する資格を取得する。また、プレゼンテーション能力やプログラミング・コンピュータデザインなどの専門的な情報技術を取得することを目標とする。
- ◆「環境福祉コース」では、環境に対する人間の責任と役割を理解し、具体的な行動が出来るように学習する。福祉分野では、こども園や高齢者福祉施設での実践的な活動を通じて、創造力を発揮しマネジメントすることと、実社会を意識した体験をすることによって自分を高める実践形式の学びを行う。

時代状況に鑑み、全校的に情報教育を充実させて行く。携帯電話の校内持ち込みに伴い、携帯のマナー教育、また、急速な情報化社会の進展に伴い、情報モラル教育を強化する。

人権教育の研究体制や教育体制については、効果的な方法を模索していく。環境問題意識についても同様である。校舎内壁の張り替えや、生徒トイレのリニューアル（洋式化）に伴い、生徒の校内美化に対する意識は以前より高まったが、更に実践的態度の育成に努めたい。食育については、大きな課題である。食堂の改革を行う。

生徒の自主的な活動としての生徒会活動については、生徒の要求の吸い上げを更に図っていく。昨年度、学園祭はコロナ禍により規模を縮小したが、文化祭・体育祭共に実施することが出来た。学園祭等において、生徒の自主性も育ってきている。生徒会の活動は充実してきている。今後、この方向を更に推進したい。

読書指導、国際理解・国際交流について依然本校は弱い。各担当で具体的な方針を立てるように促す。図書のデジタル化に取り組む。部活動の活性化は本校の重要な柱と位置づけている。吹奏楽部を特別強化クラブとし、強化クラブとして硬式野球部・サッカー部・卓球部・剣道部・演劇部を指定した。更に今年度から女子バスケットボール部を強化クラブに指定する。学園として、部活動を支援する体制が整って来ている。中期的目標として、部活動・文化活動の盛んな精華高校をめざす。

◎ 生徒指導・支援

本校の生徒指導は、中学校・地域・保護者から理解され、評価されている。さらに期待に応えられるように努力する。ただし、時代の要請に合わせて、見直すべき点は柔軟に見直して行く。進路指導についても、生徒の多様な進路に答えられるきめ細かい指導を堅持したい。ただ、進路の情報発信においては保護者の要望が強い。充実した進路情報の発信に努める。学習指導については、各教員が生徒の実態に合わせた工夫・改善を行っている。しかし、保護者の評価は高くない。更に工夫された、わかりやすい学習指導を行いたい。

◎ 教員研修・資質向上

教員研修・資質向上は、年間を通じてもっと充実させなければならない。抜本的に見直す必要がある。また、専門的な知識はもちろん、一般教養についても、教員各自の自己研鑽を強く求める。

◎ 総合評価

建学の精神（教育目標）を、学校関係者に浸透させる努力を重ねて行く。生徒の愛校心は低い状況にあると、教職員は認識している。また、保護者評価において「精華高校の社会における評判は良い」の肯定的評価は約半数である。本校の社会的評価を上げるために、進学率および進学実績の向上を図る。また、地域に貢献できるコース活動、部活動を更に推し進めることにより、生徒の自己肯定感を高める教育活動を行いたい。

本校の生徒指導は、中学校・地域・保護者から評価されている。今後も生徒指導に強い精華という評価は堅持したい。ただし、

一部頭髪指導等、厳しすぎるという意見もあることに留意したい。また、髪型や校則等、少し緩めてもいいのではないかという意見も増えてきている。生徒・保護者の意見も参考にしながら、時代に合わせた柔軟な対応を取りたい。いじめについては、絶対に許さないという強い姿勢で臨む。いじめの兆候を早期に発見し、すばやく対応していく。進路指導については、生徒の多様な進路に応えられるきめ細かい指導を継続したい。進路の情報発信については、保護者からの要望が強いため、更に情報発信に努める。学習指導については、各教員が生徒の実態に合わせた工夫・改善を行っているが、保護者・生徒の要望が強い「わかりやすい授業」については、更に研鑽を積みきめ細かい、わかりやすい学習指導を行いたい。

情報教育、人権教育、環境教育については、具体的な方策を立てながら強化する必要がある。国際理解教育・国際交流についても、さまざまな工夫をして充実させる必要がある。教員研修、教員の資質向上については、何か抜本的な改革が必要な時期に来ているのかも知れない。

本校は保護者、中学校、地域に信頼される、地域に根ざした学校をめざす。また、時代の要請に応えるべく、学校改革、教育改革を思い切って進め、時代が求める新しい教育に取り組んでいく。

学校協議会からの意見（令和3年11月 実施分）

出席者

堺市福田校区自治連合会長、 堺市東陶器校区自治連合会長
精華高等学校保護者会会長、 精華高等学校同窓会会長
精華高等学校校長、 精華高等学校副校長、 精華高等学校教頭、 精華高等学校事務長、 精華高等学校参与
精華高等学校教務部長、 精華高等学校生徒指導部長、 精華高等学校生進路部長
精華高等学校ミドルリーダー

配付資料

1. 校長挨拶

今年度 312 名の新生を迎えることができ、入学式も挙行できました。始業式は昨年入学式のできなかった 2 年生を体育館に入れ、新年度がスタートしました。

しかし、4 月から 9 月は新型コロナウイルスとの闘いで、休校を挟み耐えに耐えた日々でした。10 月には、ある運動部に 3 名の罹患生徒が出て、クラスターになるのではと気をもみましたが、幸い事なきを得ました。

月末には学園祭文化の部を、非公開にはなりましたが外部芸術団体なども招き、盛大に実施いたしました。ハロウィンの仮装大会も込みで、生徒達があんなに弾けたのは久しぶりに見ました。週が変わると体育の部が、金岡公園陸上競技場にて学年別二部制にて実施されました。これまでの京セラドーム大阪での行事ではありませんが、応援に興じるピカピカ輝く生徒の顔や姿を見ることができ、胸をなで下ろしました。

さて、本校ではこの夏全館 ICT 化工事が終了し、従来の E-room の授業に加え、すべての教室にて Big-Pad やプロジェクターを用いた授業が展開されています。もちろんコロナ休校時には、オンライン対応に使用でき、色々な行事の遠隔参加を可能にしています。

また、部活動への強化策も実を結び始めています。特別強化クラブの吹奏楽部は 10 年ぶりに大阪代表として関西大会へ出場できました。さらに、強化クラブの演劇部は、府代表として関西大会を勝ち抜き、春の全国大会への出演を勝ち取りました。その他、ダンス部や E-Sports 部も活発に活動しています。

2. 校長による学校評価講評

常に職員・生徒共に社会的評価の向上を目標に教育活動を行っています。コース制の特徴を伸ばすことで、より社会からのニーズに応えられる学校になっていきたい。との思いが、新年度からの新コース制立ち上げに繋がりました。

スポーツ&アートは、強化クラブ員の専願者クラスになります。スーパーグローバルは、英語教育・国際感覚・進学実績に特化した、優遇制度をフル活用できるコースです。全 5 コースとも、土曜日は探究学習に当て、土曜日が楽しみになるような設定を行いました。

さらに、スカラシップ制度を導入し、高度検定合格者には優遇制度を適応します。

強化指定クラブ以外にも手厚い手立てをしています。1 例としてクラブ顧問の裁量による優遇制度入試や、受験生本人による頑張り宣言「チャレンジ制度」を設けています。

保護者評価についても概ね高い評価（8～9 割）を得ています。生徒の様子も落ち着いてきているが、その分授業に対する保護者からの要望も強くなりつつある。それらに応え、さらに前進したい。

PLAN (重点目標)	DO (具体的取組み)	CHECK (自己評価)	ACTION (改善のための方針)
<p>1 日々の授業を充実させると共に、生徒に将来の目標を持たせ、意欲的に学習に取り組む環境を整える。</p>	<p>教員の授業に対する意識を高める。工夫されたわかりやすい授業を実践する。研究授業を充実させ、授業公開を増やす。 <u>学校自己評価「授業公開状況」「学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている」および各コースの教育内容に関する学校自己評価、また保護者評価「内容がわかりやすい充実した授業が多い」「生徒が興味・関心を持って取り組むことが出来るような授業が多い」「各コースにおける専門教科の授業内容は充実している」等を確認しながら評価する。</u></p>	<p>対面授業が出来ることの有り難さが、教員・生徒共に強く認識されている。しかし、生徒の授業への取り組みにはばらつきがある。授業中に寝てしまう生徒もいるのが現状である。教員は様々な工夫をして、授業に臨んでいる。保護者の「工夫されたわかりやすい授業」への期待は高い。教員の授業に対する意識と保護者・生徒の意識には、ギャップがある。コロナ禍の中で、授業公開は制限せざるを得なかった。</p>	<p>全館 ICT 化の工事を夏に終えた。ICT 環境の整備に伴い、各教科の授業の内容が充実していくと共に、生徒の授業に対する取り組みもより積極的になる。教員は「工夫されたわかりやすい授業」に向けて様々な取り組みを行っていく事が予想される。コロナの感染状況が落ち着いてくれれば、積極的に授業公開を行っていきたい。</p>
<p>2 特進共通コースにおいては、高校生としての自覚を持たせ、生徒の基本的な生活習慣の確立、マナーの向上を目指す。落ち着いた雰囲気の中で、授業を受ける体制を作る。いじめや生徒間トラブルが起きないように、協調性や社会性を身につけさせる。</p>	<p>入学直後に、オリエンテーションを2日実施する。授業中・昼食時の巡回を実施する。週1回のコース朝礼においては教員輪番で講話を行い、早朝学習(マナトレ)を実施する。ワンスツェプノート・スタディサプリを活用し、進路に結びつく基礎力・応用力を身につける。 <u>学校自己評価、また保護者評価等を確認しながら、特進コース長とのヒアリングをもとに評価する。</u></p>	<p>日々の生徒指導の中で、基本的な生活習慣を身に付けさせる試みは継続している。保護者評価における「生徒は礼儀正しく、服装・頭髪等のマナーが守られている」の項目は、高評価を頂いている。落ち着いた雰囲気の中で、授業を受けさせることは、永遠のテーマであり教員の力量にもかかっているが、学校全体でそのような雰囲気に持っていきたい。学び直しについては、充分に行えていない。</p>	<p>来年度の新コース制の立ち上げに伴い、新コースにおいて授業の中で国・英・数3教科において「学び直し」を実施する。日々の生徒指導の中で、基本的な生活習慣を身に付けさせる試みは継続して行く。来年度は2年次におけるコース選択はなくなる。</p>
<p>3 特進選抜コースでは、授業の充実はもちろん、放課後・長期休業中の講座を通して大学受験についての必要な学習内容を習得する。大学進学実績の充実を図る。</p>	<p>放課後・長期休業中の受験講座を充実させる。早朝学習・コース合同テスト・大学見学会・進路講演会・勉強合宿等を実施する。募集対策室・広報を中心に、広報を強化し、特進選抜コース入学生の増加を図る。特進共通コースからの転コースを促すため、生徒の大学進学に対する意識を高めるよう指導する。 <u>学校自己評価「生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある」、また保護者評価「学校は進路に関する連絡や、情報提供を十分にしてい</u></p>	<p>1年生においては、学習の習慣を身に付けさせることが出来た。全学年を通して、授業と講座を通じて大学受験に必要な学力を習得させている。全学年を通して、大学進学に関する情報を提供すると共に、自ら調べる力を養成している。3年生においては、入試問題を数多く解き、受験に対応出来る実力を身に付けさせた。</p>	<p>来年度から、特進選抜コースを発展させた形で、スーパーグローバルコースを立ち上げる。英語教育と国際教育に特化したコースで新しい教育を始めるとともに、大学受験に必要な実力を養成する。2・3年生は、特進選抜コースにおいて従来の教育を行い、大学受験に必要な実力を養成する。</p>

<p>4 IT 総合コースでは、挨拶・礼儀、約束遵守、身だしなみ等、基本的な生活習慣を身につけさせる。また、コースの専門性を更に高め、情報化社会に対応出来るスキルを持った生徒の育成を図る。</p>	<p><u>る」「学校は進路に関する保護者や生徒の相談に乗っている」等の満足度の結果を確認し、保護者の意見欄を参考にしながら、特選コース長とのヒアリングをもとに評価する。</u></p> <p>基本的な生活習慣の確立させ、遅刻・欠席をなくす指導をコース全体で取り組む。コンピュータに関する資格取得率 100%をめざす。情報モラル教育を強化し、ネット関係のトラブルを未然に防ぐ。プレゼンテーションの方法を学び、コミュニケーション能力を向上させる。情報系の専門学校と連携し、専門的な講座の開講を企画・実施する。<u>6月・11月に実施される保護者会における意見と、学校自評価「情報能力育成」「情報モラル指導」、年度末の保護者評価アンケート結果および意見欄を参考にして、IT 総合コース長と検討を加え評価する。</u></p>	<p>日々きめ細かい生徒指導を重ねている。プレゼンテーション能力を向上させるために、校外研修の行き先を生徒の発表で決定するなど、情報に関する専門性を高める教育を行うことが出来た。コンピュータに関する資格を取得するための取り組みを、意欲的に行っている。情報系の専門学校と連携し、専門的な講座の開講を年数回実施した。</p>	<p>来年度から、IT コースを発展させた形で、i-Tech コースを立ち上げる。1年次からの募集で、情報に関する専門性を高め、さらに魅力的なコースにしていく。2・3生は、IT コースにおいて従来の教育を、更に充実させて行う。</p>
<p>5 環境福祉コースにおいては、コロナ禍の中で、保育所や幼稚園・こども園、また、高齢者施設での交流は困難な状況であるが、出来ることを探っていく。その中で主体的に物事に取り組む姿勢を育む。また、環境問題や社会福祉に対する高い意識を持った生徒を育成し、社会に貢献する力を育む。多様な個性への許容の心を育てる。</p>	<p>遅刻・欠席については実習先との関係があるので、厳しく指導する。コース朝礼において、生徒のプレゼンを実施する。保育所や幼稚園・こども園、また、高齢者施設での実習・交流を引き続き充実させる。ビオトープ実習や、無農薬野菜の栽培を通して、環境問題に対する高い意識を持った生徒を育成する。介護職員初任者研修を実施する。<u>6月・11月に実施される保護者懇談会における意見と、学校自己評価『環境教育』の項目、年度末の保護者評価アンケート結果および意見欄を参考にして、環境福祉コース長と検討を加え評価する。</u></p>	<p>コロナ禍の中で、思うように保育所や幼稚園・こども園、また、高齢者施設での実習・交流が行えなかった。遅刻・欠席については、厳しく指導した。コース朝礼において、生徒のプレゼンを実施した。ビオトープ実習や、無農薬野菜の栽培を通して、環境問題に対する高い意識を持たせる教育を行うことが出来た。介護職員初任者研修を実施した。</p>	<p>来年度、環境福祉コースは1年次からの募集となる。専願募集で、環境や福祉に対する意識の高い生徒を集め、より充実した教育を行いたい。2・3年生は従来の教育を行うが、コロナ禍で行えなかった保育所や幼稚園・こども園、また、高齢者施設での実習・交流を復活させたい。</p>
<p>6 スポーツ健康コースでは、集団行動により、協調性の育成をめざす。また、素直で思いやりのある心を育てる。さまざま</p>	<p>遅刻・欠席をできる限り少なくするために、保護者との連携をしっかりと行う。ゴルフ実習や、金剛登山等コース行事を通して心身を鍛え、スポーツの楽し</p>	<p>集団行動と協調性の大切さを意識させ、時間厳守を守らせるよう日々指導している。ゴルフ実習や、金剛登山等のコース行事を通して心身を鍛え、スポー</p>	<p>2年後には役割を終える、スポーツ健康コースである。来年度以降は従来のスポーツ健康コースの教育内容を、更に充実させていく。</p>

<p>なスポーツやトレーニングに関する知識を学び、専門種目の技術を向上させると共に、自らの健康の保持増進に努める。</p>	<p>さを学ぶ。コース講演会やテーピング実習を行い、専門的な知識を学ぶ。身体体力測定やマラソン大会などの補助役員を務め、集団に貢献する心を養う。早朝学習を実施する。 <u>6月・11月に実施される保護者懇談会における意見と、学校自己評価「健康・食育」、「スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている」、年度末の保護者評価アンケート結果および意見欄を参考にして、スポーツ健康コース長と検討を加え評価する。</u></p>	<p>ツの楽しさを学ぶことが出来た。コース講演会やテーピング実習を行い、専門的な知識を学ぶと共に、身体体力測定やマラソン大会などの補助役員を務め、集団に貢献する心を養うことが出来た。</p>	
<p>7 特進総合コースは、大学進学に力を入れると共に、多様な進路に対応するため機能性の高いコースをめざす。さまざまな進路希望を持つ生徒に即した、学習環境を充実させる。</p>	<p>学習習慣を確立させ、基礎学力を底上げする。また、コース独自の補習により、学習体制を強化する。スタディサプリ・MANABOSSの活用により、放課後や家庭学習において基礎学力の向上や受験科目の勉強を積極的に促す。漢字検定や英語検定などの資格取得を積極的にめざす。大学進学実績の向上と共に、専門学校や公務員・就職などの多様な希望進路を実現させる。 <u>6月・11月に実施される保護者懇談会における意見と、学校自己評価、年度末の保護者評価アンケート結果および意見欄を参考にして、特進総合コース長と検討を加え評価する。</u></p>	<p>2年生においては、学習習慣を確立させるために日々努力している。また、基礎学力を底上げするよう、日々取り組んでいる。スタディサプリ・MANABOSSの活用により、放課後や家庭学習において、基礎学力の向上や受験科目の勉強を積極的に進めている。3年生においては、多様な進路希望の生徒がいるため、きめの細かい進路指導を行って、進路決定が進んでいる。</p>	<p>特進総合コースは、2年後には役割を終える。多様な進路希望の生徒のために、従来通りきめの細かい教育内容を充実させて行く。大学進学実績の向上と共に、専門学校や公務員・就職などの多様な希望進路を実現させる。</p>
<p>8 グローバル化の進展に伴い、国際理解教育に取り組む。</p>	<p>個人参加型の語学研修を実施し、成功させる。その際、事前指導・事後指導をしっかりと行う。大阪府グローバルリーダー育成・留学促進事業に参加する。海外の学校との姉妹提携を模索し、交換留学生の制度を確立する。オンライン英会話の実施に伴い、その内容を英語科と共に充実させる。 <u>学校自己評価における、「国際理解」の項目において、評価の肯定率70%以上をめざす。</u></p>	<p>コロナ禍の中で、語学研修は見送らざるを得なかった。オンライン英会話は拡大し、その内容を充実させることが出来た。</p>	<p>時代の要請である国際理解教育は、新しく立ち上げるスーパーグローバルコースが担うこととなる。来年度以降は、このコースを中心に、様々な新しい試みを実践していく事になる。</p>

<p>9 本校特別強化クラブである吹奏楽部を中心に、強化クラブである硬式野球部・サッカー部・卓球部・剣道部・演劇部を強化する、また、その他の運動部・文化部においても、部活動の強化、活性化を図る。また、それらの部活動を通じて地域社会に貢献して行く。</p>	<p>部活動推薦生徒（専願）の本校入学者数を増やすため、優遇制度の拡充を更に行い、広報活動を強化する。オープンスクールの参加人数を増やし、部活動推薦生徒の入学生増加を図る。吹奏楽部・ボランティア部・演劇部等を中心に、地域社会に貢献する。 <u>学校自己評価における、「部活動」の項目並びに保護者評価「部活動は活発である」の項目において、評価の肯定率 70%以上をめざす。</u></p>	<p>特別強化クラブである吹奏楽部は、10年ぶりに吹奏楽連盟主催の関西吹奏楽コンクールに出場し、銀賞を獲得した。強化クラブである硬式野球部・サッカー部・卓球部・剣道部・演劇部は部員数を増やし、それぞれに活動を活発化させている。卓球部は近畿大会出場を果たした。また、なぎなた部は全国大会に出場をした。オープンスクールの参加人数は、昨年度に比べ倍増した。</p>	<p>現在の路線をさらに押し進める。強化クラブに、新たに女子バスケットボール部を加えたい。新コースであるスポーツ&アートコースは、強化クラブの部員のみで構成されるコースである。このコースを中心に、ますます部活動の盛んな精華高校をめざす。</p>
<p>10 学校施設・設備の充実、また、トイレの改装に引き続き取り組み、清潔・安全な学校をめざす。それに伴い、生徒の美化意識を高める。</p>	<p>昨年に引き続き、新館の男子生徒トイレを改装し洋式化する。講話や清掃指導により、生徒の美化意識を高める。 <u>学校自己評価における、「環境教育」の項目並びに、保護者評価「学校の設備・備品は、学習環境の面においてほぼ満足できるものである」「教室・特別教室・運動場などの施設は、活動しやすいように整備されている」「学校内は、清掃が行き届いていて、清潔である」の3項目において、評価の肯定率 70%以上をめざす。</u></p>	<p>この夏、新館の男子生徒トイレを改装し洋式化した。美化教育については、長引くコロナ禍の中で、十分に美化意識を高める教育が出来なかった。</p>	<p>来年度も引き続き、生徒トイレの改修・洋式化に取り組み、清潔・安全な学校をめざす。講話や清掃指導により、生徒の美化意識を高める教育を推進したい。</p>
<p>11 広報の充実・強化、ホームページの更なる充実を図り、本校の魅力を積極的に発信出来る体制を確立する。また、SNS等による情報発信を検討していく。</p>	<p>学校広報を強化し、本校のイメージアップを図る。ホームページを見直し、情報発信を更に充実させる。本校の斬新な広報を継続する。 <u>保護者評価「学校のホームページは充実している」において、評価の肯定率 70%以上をめざす。</u></p>	<p>広報部員の増員により、学校広報の強化は着実に進んでいる。それに伴い、ホームページにおける、情報発信は充実して来ている。本校の斬新な広報は、引き継がれている。</p>	<p>来年度も現在の体制を維持し、更なる情報発信に努める。また、SNSによる情報発信にも、積極的に取り組んで行きたい。</p>
<p>12 教育改革会議において、引き続き本校教育の中身を検討すると共に、来年度からの新カリキュラムを策定する。</p>	<p>アクティブラーニング推進については、「教育改革推進本部」を中心に各教科若手教員を組織し研究して行く。Eルーム（ICT教室）の活用を進める。令和4年度にはWi-Fi環境を全教室に整備し、新入生一人一人にタブレットを持たせ新しい教育を始める。そのための具体</p>	<p>この夏、全館ICT化工事を完了した。Eルーム（ICT教室）の活用は、積極的に行われている。精華高校における新しい教育は、着実に進んでいる。</p>	<p>来年度は、新1年生において新カリキュラムが始動する。また、新コース制の立ち上げとともに、新1年生においては1人1台タブレットを持たせ、新しい本校の教育を推進して行く。</p>

<p>13 新コースの立ち上げに伴い、本校のコース制の進化・再編を行い、生徒募集につなげる。また、本校のめざす教育、本校の将来像を示して行く。</p>	<p>的検討に入る。 <u>学校自己評価を参考に、実施状況を評価する</u></p> <p>新コースの策定、コースの再編を行う。新カリキュラムを策定する。 <u>学校自己評価を参考に、実施状況を評価する。</u></p>	<p>新コース 5 コース（ニュースタンダード・スポーツ&アート・i-Tech・環境福祉・スーパーグローバル）、また、新カリキュラムを策定し、本校の将来像を示すことが出来た。</p>	<p>普通科におけるコース制を中心に、教育方針に沿った本校の新しい教育を推進して行く。</p>
---	--	---	---